



明治大学校友会

千葉県西部支部だより

第8号
2012年
夏

発行：明治大学校友会千葉県西部支部 〒277-0027 千葉県柏市あかね町8-58 発行人：猪瀬 主税

学校法人明治大学は大学創立130周年を記念し、創立記念祝日となる11月1日に、「明治大学創立130周年記念式典」が駿河台キャンパス・アカデミーホールで盛大に挙行されました。

式典は、国内外から多くの関係者・来賓が参列する中、厳かに開式しました。長堀守弘理事長、納谷廣美学長はそれぞれ、130年前に明治法律学校を創設した3人の創立者 岸本辰雄先生、宮城浩蔵先生、矢代操先生の志に思いを馳せながら、大学を代表して式辞を述べました。

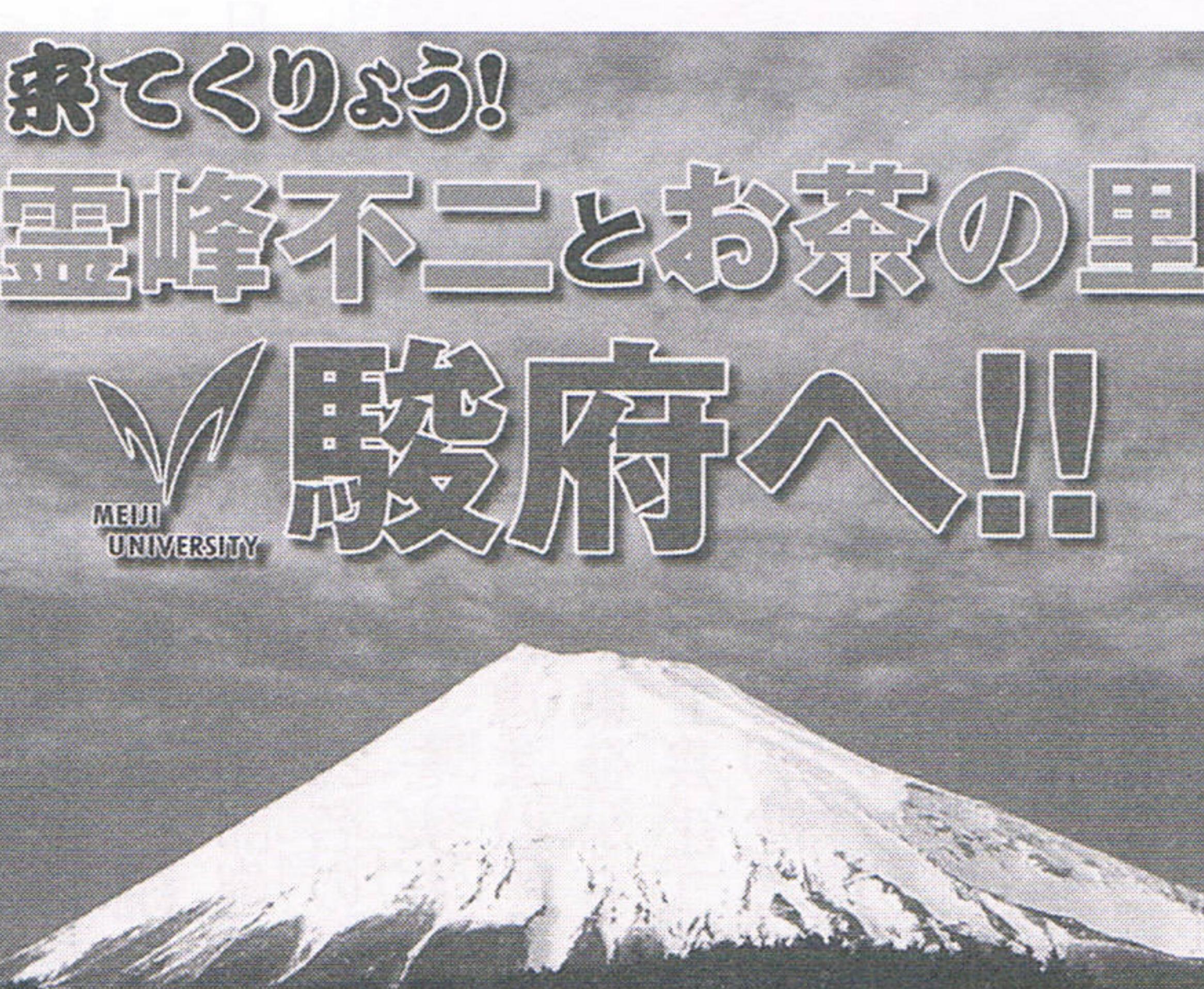


明治大学創立130周年記念 第47回全国校友東京大会開催

11月3日（祝）文化の日。明治大学創立130周年記念第47回全国校友東京大会が盛大に開催された。13時からの式典及び講演並びにマンドリン俱楽部演奏会は明治大学駿河台キャンパスアカデミーホールを会場に、17時30分からの懇親会は帝国ホテル孔雀の間を会場に全国・海外から約2100名の校友とそのご家族が集う過去最大の大会となつた。式典は第1会場から第3会場まで、満員の来場者全員で東日本大震災犠牲者及び物故校友への黙祷が捧げられた。

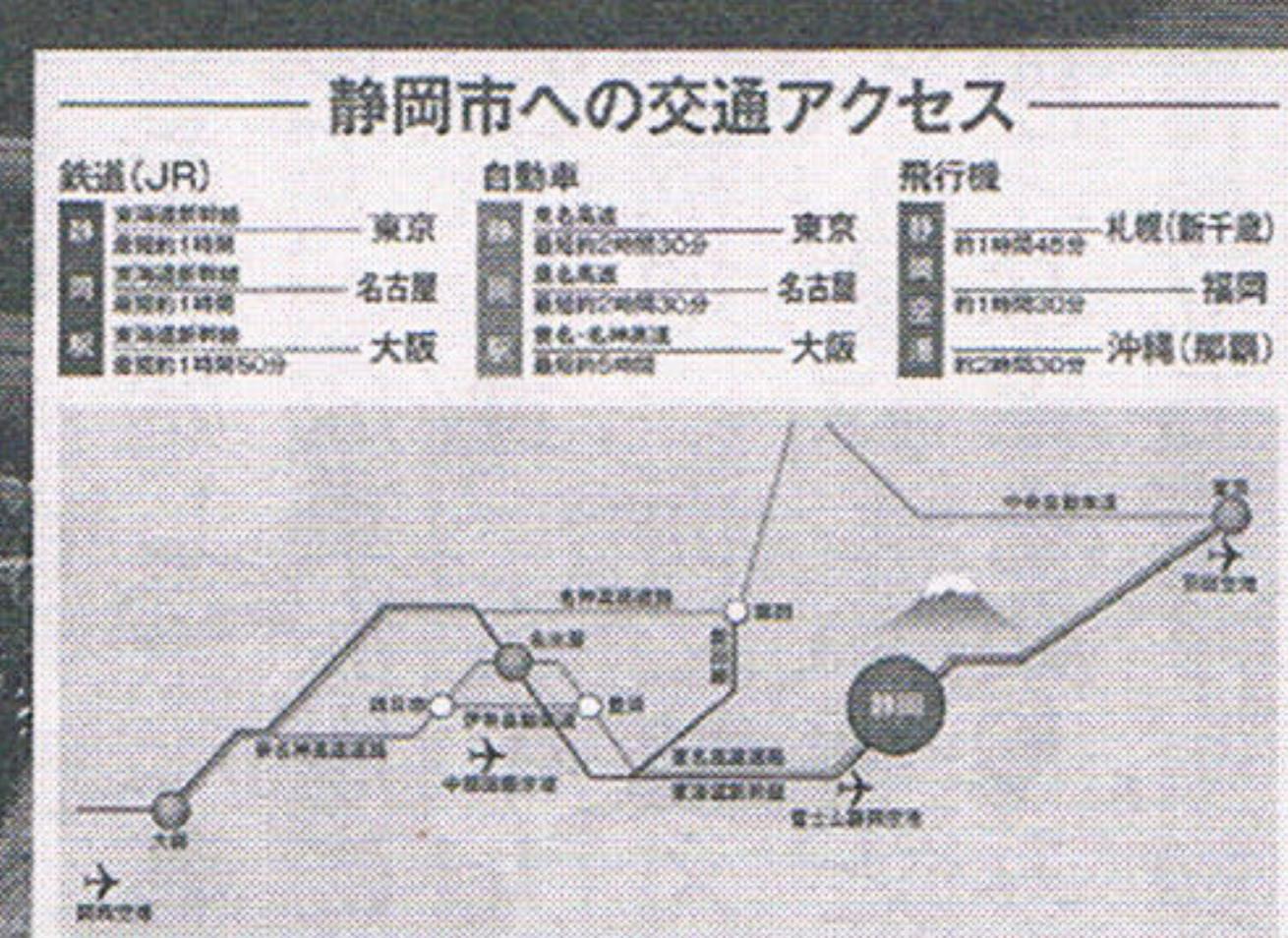
明治大学創立130周年記念式典が行われる

第一部式典の終了後10分間休憩の後、株ホリプロ創立者・最高顧問の堀威夫氏（S30商卒）による記念講演「いつだつて青春―数多の逆境を乗り越えて―」が行われ、第三部はマンドリン俱樂部演奏会があつた。



第48回 明治大学全国校友 静岡大会

とき (平成24年)
2012年 9月9日(日)
ところ グランシップ
静岡市葵区池田79-4
○記念式典 13:00 受付開始
○開会式 14:00~
○記念講演会 (講師未定)
○懇親会 グランシップ



第四十八回 全国校友大会 静岡大会

会場を移して17時半からは帝国ホテル孔雀の間全館を使用して2100名が参加しての懇親会。場内には福島県いわき市復興支援の物産展も用意、大いに賑わっていた。アトラクションは明治大学ビッグサウンズソーエティオーケストラ及び奥田スインギー英人＆ブルースカイオーケストラによるビッグバンドの生演奏。最後まで気持ちの良い東京大会であつた、と参加者は大いに満足した一日となつた。

流山地域支部

明治大学校友会流山地域支部に

入会して思うこと

会社退職後どのように過ごしていくか、無趣味の私が何かしらやか、考へる間もなく定年を迎えてしました。そこでまず健康維持のため近くのスポーツクラブに通い始め、毎日ノルマを決めて一人でもくもくとやつていたので友達も出来ませんでした。又会社人間だったので地域の人間との交流もなく、しばらくの間は時々会社の人間と会つていったが年月がたつうちに生活圏も違うのでだんだん疎遠になつていきました。

そんな折りに私の住んでいる地域で明治大学卒の何名かの人達が校友会の流山地域支部を立ち上げたいとの連絡があり、最初の会合が近くの自治会館で行なわれることで参加してみることにしました。



当日十数人が集まりましたが、私は全く知らない人達ばかりでした。各人自己紹介をして地域支部を立ち上げることが全員一致で決まり、その後の皆さんの努力と、すでに念願の流山地域支部が出来現状に至っています。

流山には明大校友が千二百人いると言われています。地域支部の年間行事はラクビー観戦、ハイキング、マンドリン演奏等々の企画があり毎回三十人程の参加があります。私もできる限り毎回参加することで皆さんとの交流し親睦を深め視野を広げることにしています。

人間は一人では生きていけないのでから一人でも多くの人と知り合うことが重要なことと思われます。従つて自分の住んでいる身近かなところで何かつけ係つていくことが、これから的人生を楽しむことです。確かに過ごすことにつながるのではないかと思っています。

すでに皆さんそれぞれにいろいろなことをされて人生を謳歌されていると思いますが、明大校友で流山地域支部へ一人でも多くの方が入会されことを望んでいます。

(重好)

浦安地域支部

復興に向けて

昨年3月11日、東北地方を襲つた東日本大震災は浦安市にも大きな被害をもたらしました。

市域の三分の二が液状化による土砂で埋まり、

上下水道などのインフラも破壊され、市民は庭に噴出した土砂の撤去に追われる毎日となり、避難所生活にはならなかつたものの、風呂やトイレが使えないという生活が、長い方で1月以上も続きました。

当然に浦安地域支部の活動も休止せざるを得なくなり、毎年恒例の「お花見」や「歩こう会」のイベントも中止となつてしましました。

このような時に、各地域支部の方々からの温かいお見舞いの言葉をいただき、会員一同元気を取り戻したところです。

市民生活もやつと落ち着いてきた5月末に総会を開催しましたが、会員の間では震災の時の話でもちきりでした。傾いた家を直すのか、新たに他の場所に転出した方が良いのか等、決断を問われる問題で、校友の中にもかなり悩んだ方もいるようになります。

しかし、この地に留まり、浦安の復興に寄与して行きたいという考え方が多く、転出される校友の話はあまり聞いておりません。

本格的な復興元年となる本年、浦安地域支部の活動も、些少ではありますが、復興の手助けになればと思つております。

(板橋純三郎)

船橋地域支部

早春「親睦一泊旅行」

船橋地域支部創設以来、初めての一泊旅行2月27～28日、20名の参加者による、「外房と鴨川新名所めぐり」を実施しました。

天候に恵まれ、津田沼駅前より貸切バスで、9時出発、東金から「外房めぐり」を開始し、「菅原ガラス工芸社」見学・買物をして、成東海岸にある豪華食事処「ニュー大洋」にて昼食、次の十九里「ハーブガーデン」では、敷地一面に植えられた「ハーブの木や苗木」など、香ばしい香と「ハーブ館売店」での「珍しい商品」などを楽しみました。御宿の「月の砂漠公園」に立ち寄り、つづいて房総勝浦で有名な遠見岬神社での雛祭りには、近郊から多くの観光客が訪れ、賑わつておりました。神社の石段には「お雛様」で埋め尽くされ、周辺の商店の店先にも飾られ、歩道一杯に人波が広がつておりました。



溝渕良一・穴澤豊治
旅行幹事

絆の大切さ

—東日本大震災から考える地域力再発見

東日本大震災から、一年が過ぎました。未曾有の広範囲に及ぶ地震被害と、福島県の原発被害の複合的な災害が、日本人としての美德と地域の人間同士の絆の大切さを再認識する機会を与えてくれました。明治大学の千葉県西部支部校友会の皆様の家族、親族、関係者の被災者の方々の、一日も早い復興をお祈りいたします。



東日本大震災以後私たちの支部は、秋のマンドリンコンサートの延期、東京の全国大会へのバスでの参加、秋の総会、2月東日本大震災支援音楽活動をしている聖徳大学デイバレンジャーを招いてのミニコンサート新年会等の積極的な活動を続けております。明治大学の校友会は、二つの活動の柱があると考えます。一つ目は、私たちを育ててくれた大学を支援すること、二つ目は、同窓生のネットワーク作りです。震災があつてつくづく気付いたことは、同じ大学を出た者同士、年代、学部、職業を越えた明大人間の親しみやすい、他人のためになる、地域ネットワークが構築できる「紫紺魂」の素晴らしいことです。今後とも、明大の絆をより高める楽しい企画運営をしていきたいと思っております。ぜひご参加ください。お待ちしています。

(長江曜子)

明大節の口上

西の方見渡せば、未だ真白き残雪を頂く靈峰不二の御峰々を仰ぎ、東の方耳傾ければ、坂東太郎が大利根のせせらぎを聴く。ここ関東平野の一角、御江戸神田駿河台の地にそびえ立ったるは、我らが母校明治大学である（そうだ）。ご存じ明大節口上、出だしの一節です。

しかし、駿河台では富士山は見えるものの、利根川のせせらぎは聞こえません。せせらぎはともかく、どこかに「西に富士山がみえて、ふり返ると利根川が臨める」場所はないでしょうか。



これに該当する場所は我が千葉県西部支部域内の野田・柏・我孫子にあります。このあたりの利根川の西側堤防上では西に靈峰富士の峰を、東に坂東太郎の清流を臨む構図になります。茨城県側からでは利根川も西に見えるので、口上に合いません。また、これより上流では富士山の方角が南になり、口上と合わなくなります。千葉県こそ明大節の口上に合つた地なのです。

具体的な地名を求めて「関東の富士見百景」を探ると、我孫子市の吉利根川と野田市の関宿城博物館がこの条件に当たります。これらをインターネットで検索すると、利根川の堤防からみた富士山の美しい姿がみられます。

大言壯語な口上ですが、偶然にも私たちの郷土でしかみられない自然の構図を謳いあげています。柏地域支部では、話の種に実際にこれらの地に行つて、口上どおりにみえるかどうか、この目で確認したいと考えています。よろしければ一緒に探しませんか。

水野 隆支部長逝去
関俊雄氏が新支部長に就任

我孫子地域支部の水野 隆支部長（32年政経卒）が平成23年7月22日午後7時10分に入院先の柏慈恵医大病院で急逝されました。13年前、校友会我孫子地域支部を立ち上げるために、設立準備会を我孫子駅前のレストラン「コ・ビアン」に集まつて相談し、我孫子地域支部をスタートさせて以来、水野氏は幹事長としてその後地域支部長としてリードしてこちら活躍され湖北台防犯協議会会长としても地元の湖北台を安全にすることに努力されました。水野氏はまた大変な苦労人で、現役時代にはいろいろ苦労された時期もあり、最後まであきらめず苦闘していましたが、ころ、次第に風向が変わって、遂には我が国の大表的な運輸会社の株式会社丸運の常務取締役までなることが出来たというでした。この水野氏が淡々と語られる思い出の話は次代を背負う若い人に是非広く聞いて欲しいと機会をうかがつっていましたが、それも十分に実現のお膳立てをできなかつた私の非力が悔やまれます。

我孫子市支部では水野氏を引き継いで関俊雄氏（38年政経卒、千葉県西部支部幹事長、我孫子地域支部副支部長）が半年の間支部長代行を務められ、この4月29日（日）の第12回我孫子地域支部総会で正式に第4代目の支部長に関氏が選出されました。関氏は我孫子地域支部で水野氏に続いて第2代目の幹事長として長く我孫子地域支部の運営に活躍して来られ、また千葉県西部支部の幹事長としても尽力して来られました。明治大学体育会バレーボール部（平成23年度全日本インカレ第4位）のOBとして高校生の期待される人材をスカウトして明治バレー部に送りこむ仕事も長くこなして来られ、明治大体育会にも役員として活躍し大きな貢献をされています。スポーツで鍛えてきた身体を現在もジムで引き続き鍛えておられる頼もしい人材です。これからも大いに明治大学の発展に益々貢献して頂きたいと期待しています。

(山田秋彦)



(山下広之)

(3) 千葉県西部支部だより

新理事長・学長が就任。

4月1日から新しい理事長と学長が就任されました。
理事長 日高 憲二（ひだか・けんじう）



現・経営企画担当常勤理事 74歳

1960年明治大学政治経済学部卒業。日本リック株式会社ファウンダー最高顧問。連合駿台会創立専務理事等、公益法人の理事長・役員を歴任。本学評議員、経営企画担当常勤理事を歴任。

学長 福宮 賢一（ふくみや・けんいち）



現・副学長（社会連携担当）、
商学部専任教授 65歳

1969年明治大学商学部卒業、1974年同大院博士課程単位修得退学。同年明治大学商学部専任助手、同講師、同助教授を経て、1988年より商学部教授。2004年商学部長、2010年副学長（社会連携担当）等を歴任。専門分野は「産業組織論」。

第15回「ホームカミングデー」のお知らせ！

開催日 平成二十四年十月二十一日（日）
会場 明治大学 駿河台キャンパス全域

各地域支部の総会・懇親会

各地域支部の総会・懇親会

☆我孫子 四月二十九日 けやきプラザ
五月十三日 三井ガーデンホテル柏
五月二十日 せきや
五月二十六日 浦安ブライトンホテル

☆柏流山 五月二十七日 市川グランドホテル
六月十日 西船フローラ
十一月十一日 聖徳大学一〇号館

市川地域支部

8回目を迎える市川地域支部

市川地域支部総会が、5月27日、市川グランドホテルに於て、開催される予定となっています。

今年で早くも、8回を迎える事になりました。市川地域支部も、行木支部長を始め、最高顧問に、

ヤマザキ製パンの、山田憲典副社長を迎えて参りました。各部

会の活動も活発となり、散歩クラブ、カラオケクラブ等の活動も、

フクラブ等の活動も、顕著で、会員が皆楽しくんで、参加してい

る事がなによります。同窓の絆と校友、明大精神の現れと見るべきでし

うか。成功を収めた、初回マンドリンクラブの開催。

その余韻も少し薄れて来た昨今、再び開催が議題となりそうな空気が漂い始めています。演奏を聴くと、誰しも、学生時代の、血沸き、肉踊る。若き日の青春時代を、想い出す人も多いのではないでしようか。何時聞いても、感動の世界へと導いてくれるのがマンクラの演奏です。



カラオケクラブの集まりです

明治大学未来サポートセンター募金

「明治大学未来サポートセンター募金」は、寄付金の使い道を五つの使途から自由に選択できる募金制度です。

一 奨学サポート資金

多くの学生の学ぶ意欲に応える奨学金制度の拡大・拡充に充てられます

一 國際化サポート資金

積極的な国際連携を推し進め、国内外に誇れる大学づくりの資金となります

一 研究サポート資金

研究・知財戦略機構を基盤として、幅広い研究を開拓するための資金となります

一 スポーツサポート資金

体育会を応援する資金です。寄付する部を選択することができます

一 キャンパス整備サポート資金

卒業生や在学生が誇れる地域共生型キャンパスを創造する資金となります

※2010年9月1日から2015年8月31日まで

（5年間）は、創立130周年記念事業として建設する施設の建設資金として募集します

平成二十四年度 千葉県西部支部 「定期総会・懇親会」のお知らせ

日 時 平成二十四年六月三日（日）
会 場 総会・懇親会 一四時～一七時
会 費 六千円

◆ 定時総会ご案内状は本部より皆さん
のご自宅へ郵送される予定です



編集後記

明大節の口上にあつた坂東太郎・利根川は、江戸

初期まで武藏野台地と下総台地の間、つまり神田台と国府台の間を自由に流域を変えながら流れ超える、校友が居ると云われます。私たちも今後、会員の獲得に、力を傾注すべきものと考えて居ます。

そして又、新会員の獲得に繋げる一助になればと思つてゐる次第です。市川地区には、三千人を超える、校友が居ると云われます。私たちも今後、会員の獲得に、力を傾注すべきものと考えて居ます。

会員減少は、即く組織の衰退に繋がります。新規会員の獲得、増強に力を注がねばなりません。

（月誌光治）

編集委員

宇都宮幸正（柏）長野敏樹（浦安）矢吹昌史（松戸）
山下広之（我孫子）鈴木英男（船橋）印南博之（市川）
大和田 隆（流山）関 俊雄（我孫子）